

1. 主題名 相手の立場に立った言動【親切、思いやり】

2. 教材名 「がんばる」はぼくの宿題

医師である筆者が、若き日の経験を振り返った話である。患者には、「がんばれ、がんばれ」と励ますのが当たり前だと思っていた筆者が、ある女性患者とのやり取りを通して大事なことに気付いていく。筆者の気づきをひもといていくことで、相手の立場に立って相手に寄り添うことの難しさ、大切さについて考えを深められる教材である。

3. ねらい

「がんばれ」という言葉を口にできなくなった鎌田實さんの心の変化について考えることを通して、思いやりや親切には様々な形があることに気づき、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりして、親切にする道徳的態度を養う。

4. 授業の様子

教材を読んだ後、鎌田さんの心情に焦点を当てて話し合った。最初は善意で患者さんに「がんばれ」という言葉を掛け続けていたものの、患者さんの「もうがんばれません。」という言葉から「がんばれという言葉がこんなにも人を傷付けていたんだ。」や「患者さんの気持ちを考えていなくて申し訳なく思った。」などの気持ちが出てきた。その事柄をきっかけに患者さんに対しての接し方を変えた鎌田さんを見て、「相手の立場に立って行動することが大切だと気付いた。」や「鎌田さんのように相手のことを知ろうと努力することが大事なのだと思った。」などの意見が出た。



5. 授業後の感想（児童のノートより抜粋）

- ・人によってうれしいことは違うということを再確認することができた。これからは相手を理解し、その人に合った対応ができるようになりたい。
- ・嬉しいことは人それぞれで、自分がしてもらって嬉しいことをするのではなく、人によって臨機応変に行動することが本当の思いやりなのだと思います。
- ・相手のことを考え、そのときの気持ちを想像することで、むやみに声をかけるのではなく、その人にあった対応ができるようになりたいです。

6. 今後の思いやりについての指導

残り30日ほどで卒業となるが、中学校に上がればまた新たに友達を作る場面ができる。他者意識をもち、相手の立場に立って行動することを学級や学年で繰り返し話し、誰に対しても親切にしようとするように指導を続けていきたい。